

普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター
実施月日：令和8年2月13日
実施場所：石巻合同庁舎401会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト活動
2	小ねぎ産地における次世代の人材育成（完了実績）
3	水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産（完了実績）
4	トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築（継続実績・計画）
5	省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上（完了実績）
6	深谷東地区における担い手法人設立による営農体制の確立（新規計画）
7	水稲乾田直播栽培導入生産者の早期技術習得による収量向上（新規計画）
	普及計画
	令和8年度普及指導方針について

2 検討委員の構成（単位：人）

区分	人数
先進的な農業者	1
若手・女性農業者	1
市町村	1
農業関係団体	
生活者	
学識経験者	1
マスコミ	
民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No. 1	4.0	<ul style="list-style-type: none">次世代の人材育成という今後最も重要となる課題において、若い世代に対して現地巡回による高温対策の効果確認や、課題解決の方策、今後の目標の設定など指導しており、出荷量・販路拡大に向け前向きに捉える生産者もいるなど評価できる活動だと感じた。青年部の組織化を図り、部会員の子弟をまとめた功績は、伴走支援の面で大変有意義な取り組みになったと思う。引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等、より多くの部会員がスリムねぎ部会の発展に意欲を持つよう人材育成の指導をお願いしたい。定量的目標に達しなかったのは、やや残念な点だったが、今回の	<ul style="list-style-type: none">プロジェクト課題としての活動は終了いたしますが、スリムねぎ部会からの継続的な支援に対する要望を受け、来年度以降も重点活動に位置づけ、スリムねぎの出荷量の回復に向けた取組や担い手の確保・育成を支援してまいります。出荷量を高く維持している部会員は、夏場に高温対策資材を活用し、作物の生育不良を防いでいることが確認されています。来年度もこうした資材の効果を検証し、より多くの部会員が導入して、安定した生産ができるよう支援してまいります。

		<p>調査の結果、農家間で生産性に大きな格差があることが判明したので、今後は生産性の高い農家のノウハウを標準化する取り組みが求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 早急の課題でもあった新たな担い手の確保・育成における対策が立てられていないことを危惧している。選別機を導入して、共同選別場を確保することで、若手の育成や新規就農の受け入れ体制ができるようになると思うので期待している。 • 経営収支のシミュレーションは非常に厳しい結果だが、所得だけではなく資金繰りの面でも経営が成り立つかどうかの検証も行えるようにしていただくと、新規参入の検討がしやすくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> • スリムねぎ部会では来年度、地元の福祉施設へスリムねぎの選別作業を試験的に委託する予定です。普及センターとしてもこの取組を後押しすることにより、将来のスリムねぎの担い手の確保・育成につながるよう支援してまいります。 • 昨今の物価高騰の影響により、農業経営にかかる費用や収益の見通しも常に変化しています。そのため、経営の目安となる数値を最新の状況に随時更新するとともに、生産者からの要望に応じて、将来の収支計画に基づいた資金繰り計画づくりを支援してまいります。
No. 2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> • 排水対策や病害虫・雑草防除などの指導・助言により石巻地区が県内最高水準であるなど活動の成果が非常にできていると思う。毎年作付面積が増え、取り組む生産法人も多くなり、収量の変動をいかに抑えるかが重要になっていくと思われる。気候の変動によって左右される農業において技術対策の確立により所得向上につながることを期待したい。 • ポテト通信によるプロジェクトの取り組みの情報提供を行うことも良い手法だと思う。栽培面積をどこまで伸ばせるか、希望する農家をどう増やしていくかにおいても、広報活動をもっと積極的に実施していくことが重要かと思う。 • 令和9年度から水田活用の交付金の枠組みが大きく変わるので、この要素も早期に織り込んでいく必要があると思われる。 • 二重明渠の作業は相当労働力を必要とするようなので、省力化の工夫が求められるところ。 • さつまいもの栽培農家が近年増加傾向にあることから、石巻でも部会を作っているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 次年度は重点課題として引き続き支援を継続していきます。特に、異常気象（高温、干ばつ）に対応できるよう、カルビーポテト（株）、関係機関一体となって取り組んでまいります。 • ポテト通信につきましては、今年度で終了いたしますが、大豆転作経営体を中心に、ばれいしょの生産拡大に向けた効果的な広報活動を検討いたします。 • 新たな水田活用交付金の動きに注意し活動して情報提供してまいります。 • 現状では、播種作業が終了してから、二重明渠を掘る作業がトラクターで施工され、その後、畝間からの二重明渠への接続部分の手直しが手作業で行われます。機械作業での精度の高い作業方法が無いか、フィールドマンと検討してまいります。 • 石巻管内のさつまいも生産者は、推定で約6haとされますが、ほとんどが直売となっています。2法人のみがJAを通しての加工用の取引となっており、この生産者を増やせるよう尽力したいと思います。
No. 3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> • 定期調査や調査速報、助言などにより生産者のタバココナジラミに対する防除技術の理解が進み、活動の成果が出ていると思う。トマト黄化葉巻病とタバココナジラミは石巻地域において大きな問題であり、先進地事例を参考にして地域の特性に応じた効果的な防除方法が確立し、大きな成果があげられることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題対象者とは、タバココナジラミ対策先進県である熊本県での防除対策を参考に、石巻地域での各種対策の有効性や妥当性の検討を始めています。令和8年度も今年度と同様の調査と意見交換を継続しながら、年度末に石巻の地域特性が反映された防除マニュアルが完成、配布できるよう、活動してまいります。

		<ul style="list-style-type: none"> 家庭菜園でトマトを栽培している一般の人にも巻き込んで対策しなければならない点が非常に難しいが重要ではあると思う。どういうコンテンツで広めていき、理解促進を図っていくかが課題であり、広報誌等での周知はもちろん、ホームセンター等と連携して苗を販売する段階から徹底することも一法と考える。 防除策を講じた際に得られる経済的な損失回避額を試算されると、より説得力が増すのではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭菜園でトマトを栽培している一般の人への働きかけの場として、ホームセンター店頭は効果が高いと考えています。3月上旬に石巻市中心部の大手ホームセンター1店舗に相談し、5月以降の苗売場への啓発チラシの設置に内諾を得ました。この活動を地域の他の店舗に拡大していきます。 防除策を講じた際に得られる経済的な損失回避額の試算については、構想していますが具体的な作業は未着手でした。令和8年度に試算を行い、生産者に情報提供いたします。
No. 4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ほ場に足を運んで現場確認しながら、きめ細かい栽培技術指導やアドバイスにより10%の増収につながる組織が多かったこと、アグリテック活用による省力化、機械選別による軽労化が効果的に機能し、生産者の生産意欲の向上など成果に結びついたものと思われる。種子大豆の収量確保・品質向上のため、引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いしたい。 手選別は、極めて労働集約的な作業となっているため、今後とも改善の余地がありそうだ。高精度の色彩選別機（今後はAI搭載の機器も登場するか）の導入など含め、スマート農業技術や、農福連携による人材のマッチングやスポットワークの活用が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も現地指導を十分に行い収量品質の向上に努めてまいります。アグリテックの導入や効率的な利用についても、アグリテックアドバイザーなどの活用を始め関係各所と連携を進めてまいります。 手選別については長年の課題ですが、色彩選別機の導入・活用により労力の軽減化を進めてまいります。また、臨時雇用の労力は地域内で確保できているようですが、今後は農福連携やスポットワークの活用も検討する方向で提案してまいります。 令和8年度は重点課題として、継続して活動を続けてまいります。
No. 5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題をクリアし、意欲ある組合員を中心に法人が設立し、良い営農体制が機能するよう担い手育成及び経営支援等に取り組んで欲しい。 集落営農の法人化支援にあたっては、次世代への事業継承の要素を盛り込んだ、10年単位の中長期事業計画を策定していただきたい。多くの集落営農において、構成員の高齢化が顕著に進んでおり、後継候補者の確保に非常に苦労しているところ。そのモデルとなるような取り組みを期待したい。 若手の育成も兼ねていき、法人格で収益事業（6次化など）も視野に入れて取り組んではどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで明らかになった法人に携わる意向のある組合員を中心に話し合いの場を設け、着実に法人化を支援してまいります。 組合員の年齢構成や、後継者候補の有無など、アンケートの分析結果をもとに将来人材確保について話し合いのテーマとし、10年単位での法人経営で想定される課題の洗い出し、方向性を定めていけるよう支援したいと思います。 法人が目指すものの一つとして6次化等の視点も考慮に入れながら将来ビジョンの策定を支援したいと思います。
No. 6	4.0	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを通じて、石巻地域が県内一となっている水稻乾田 	<ul style="list-style-type: none"> 県内一の乾田直播栽培取り組み地域として、移植と同

		<p>直播に取り組み始めた地区や組織が早期に技術習得し、安定した収量・品質を確保し、しっかり経営できるよう技術の普及に努めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲乾田直播は、高齢化による労働力不足への対策として今後不可欠な技術となる。この課題を通じて、中小規模の農家でも確実に取り組めるよう、技術の確立と普及に期待したい。女性農業者の機会の提供にもつながると良いと思う。 	<p>等の生産量、品質となるように取り組み始めた方々にきめ細かい支援を行ってまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回対象とする農業者、波及先の農業者は、まさに中小規模の経営体です。大規模農家の省力化だけでなく、中小規模の農業者が取り組んでも安定する技術となるよう、支援してまいります。
No. 7	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・国ならびに県の施策から、石巻地域、普及センターの指導へと体系的・整合的に位置づけられ、石巻地域の農業が良くなっていくような計画になっていると思う。これからの地域農業の振興に欠かせない人材の育成確保のためにも、必要とするところに足を運んで、他地域の先進事例なども参考にしながら、地域資源、地域の特色を生かした営農、高温対策等の技術の普及や経営改善支援等に取り組んでももらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係機関の皆様とともに、直接農業者の方々に接しながら、農業人材の確保・育成、農業経営の高度化、地域農業の振興等に取り組んでまいります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・これからも情報提供、技術指導、アドバイス等々お願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きタイムリーな情報発信や現地活動に努めてまいります。